

平成30年度上半期経営情報のご案内



当会の平成30年度上半期（平成30年4月1日～平成30年9月30日）における経営情報についてお知らせいたします。

CONTENTS

JA愛知信連の概要

JA愛知信連のプロフィール	1
経営理念・経営目標	2
経営方針	3

農業の担い手の所得向上等に向けた自己改革への取組み

農業の担い手の所得向上等の支援に向けた取組み	4
農業者への円滑な資金供給に向けた取組み	6
農業法人に対する多様な資金調達手段の提案	7
農業の担い手等の販路拡大の支援に向けた取組み	8
農産物直売所等の利用活性化に向けた取組み	8
地域農業の応援団拡大に向けた取組み	9
農業への理解の深耕等に向けた取組み	10

地域貢献情報

地域からの資金調達・資金供給の状況	12
お客さま本位の業務運営に関する取組み	12
金融円滑化への取組み	13
特殊詐欺被害防止に向けた取組み	13
環境保全活動	14
社会福祉活動	15

平成30年度上半期の業績

当資料の金額は、原則として、単位未満を切り捨てて表示しています。

なお、単位未満において残高があるものは「0」、残高がないものは「-」で表示しています。

JA 愛知信連の概要

JA 愛知信連のプロフィール (平成30年9月30日現在)

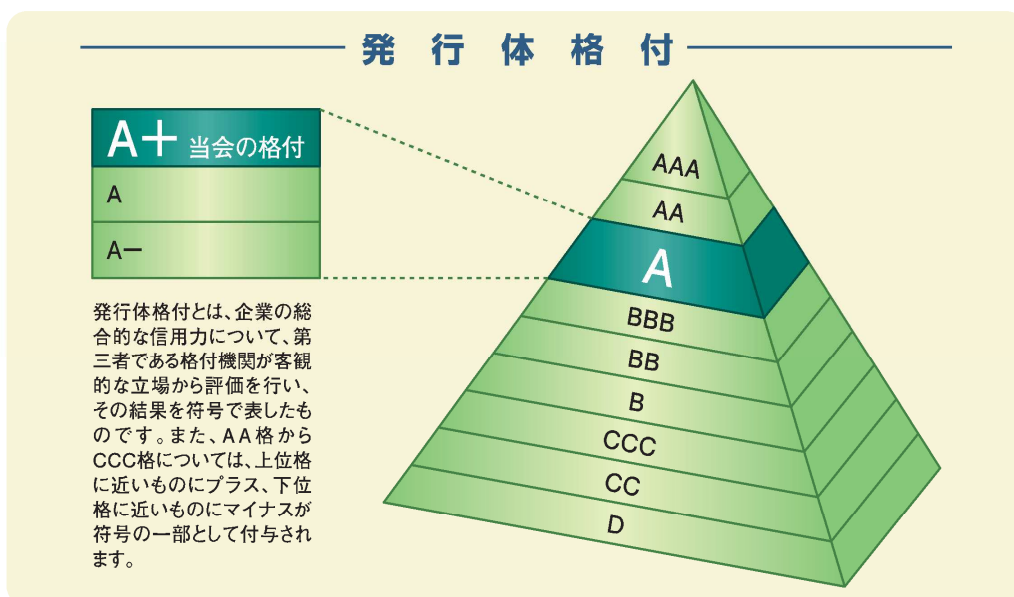
名	称：愛知県信用農業協同組合連合会
設	立：昭和23年8月
所 在	地：愛知県名古屋市中区錦三丁目3番8号
貯	金：7兆6,933億円
貸 出	金：5,963億円
出 資	金：1,984億円
単体自己資本比率：20.23%	
役 員	数：経営管理委員 13名、理事 5名、監事 4名
職 員	数：345名（男子 235名／女子 110名）

利用者の皆様に支えられ、
地域金融機関として高い評価を受けています。

R&Iより発行体格付「A+」(格付の方向性：安定的)を取得

当会は、財務の健全性を高く評価され、国内格付機関である株式会社格付投資情報センター（R&I）より発行体格付として上位となる「A+」を取得しています。また、中期的な格付の見通しである方向性についても、「安定的」との評価を得ています。

今後も、安定的で健全な経営に努め、利用者の皆様からの揺ぎない信頼の確保に向けて、役職員一丸となって努力してまいります。



 経営理念・経営目標 

JA愛知信連はJAとともに 地域社会の豊かな未来を創造します

JA愛知信連は、協同組合組織の地域金融機関として、JAとともに、利用者の皆様のニーズに合わせた多様な金融サービスを提供することにより、農業の発展と豊かでゆとりある地域社会の実現に、誇りと喜びを持って積極的に貢献します。



経営目標1

JAとともに、地域との密着度・信頼度No.1の金融機関を目指します。

経営目標2

利用者の皆様へ質の高い金融サービスを提供するため、高度な金融知識・技能を持った専門家集団を目指します。

経営目標3

金融機関としての社会的責任を果たすため、法令等を遵守し、安定的で健全な経営を目指します。

経営方針

現在、JAグループにおきましては、政府の農業政策の大転換の一つである農協法の改正（平成28年4月施行）を踏まえ、農業者の所得向上や地域の活性化に向けた自己改革に全力で取り組んでいるところですが、一方で、金融機関経営を取り巻く情勢は、少子高齢化に伴う人口減少の本格化により、リテール市場での顧客獲得競争が一層激化するとともに、日銀のマイナス金利政策の継続に伴う国内金利の低位推移により、厳しい状況が続いています。

当会は、このような厳しい経営環境下においても、県下JAが、将来にわたり安定的な経営を維持し、組合員・利用者の皆様から信頼される「JAバンクあいち」で在り続けるため、中期計画（平成29年度～平成31年度）を策定し、次に掲げる基本目標と基本方針に基づいた事業運営に取り組むこととしています。

◆ 基本目標

平成29年度から平成31年度の3か年は、自己改革の着実な実践によって組合員等から更なる信頼を得ていくため、また、リテール市場縮小とマイナス金利政策の環境下においても安定経営に向けた態勢を確立するため、①農業者等をはじめとする組合員・利用者との関係強化による取引の質的強化、②組合員・利用者への各種相談対応などによる営業活動の質的強化、③収益・採算性向上と健全性維持に向けた経営管理の質的強化など、信用事業基盤のあらゆる面での質的強化を実現することとし、基本目標を次のとおり設定して、役職員一丸となって事業運営に取り組めます。

地域の農業と暮らしを持続的に支える「JAバンクあいち」の事業基盤の質的強化

◆ 基本方針

基本目標の達成に向けて、次の四つの基本方針に基づいた事業運営を進めています。

1 「JAバンクあいち」の事業基盤の質的強化に資するJAサポートの徹底

「JAバンクあいち」として、将来にわたり地域の農業と暮らしを持続的に支える事業基盤を築くため、県下JAにおける信用事業のあらゆる面での質的強化に向けたJA支援の強化に取り組めます。

2 農業所得の向上と地域農業活性化に向けた取組強化

組合員等の農業者の所得向上と地域農業の活性化を図るため、当会はJAとの適切な役割分担のもとで、農業の担い手に対する円滑な資金供給、農業経営にかかわる経営相談の実施など、農業専門金融機関としての機能発揮の強化に取り組めます。

3 将来にわたる長期安定還元に向けた資金運用の対応力強化

マイナス金利政策による市場環境下においても、将来にわたり安定した収益を確保するため、的確なリスク管理のもとで、資金運用方法の高度化・多様化による収益力の強化に取り組めます。

4 県域機能の最大限の発揮に向けた経営基盤の改善強化

基本方針1から3に基づく取組みにより、県域組織としての機能を最大限に発揮していくため、業務の生産性向上・効率化を推進するとともに、徹底した事業運営コストの削減・抑制を図ることにより、経営基盤の改善・強化に取り組めます。

農業の担い手の所得向上等に向けた自己改革への取組み

JAグループ愛知では、政府による一律的な農協改革ではなく、JA自らの改革として、平成26年11月に、県内各地の地域特性を活かし、総合事業を通じて地域の組合員の皆様が望む営農と暮らしにかかわるサービスの提供等を目指す「JAグループ愛知自己改革実践方策」を策定しました。

当会としまして、JAグループ愛知の一員として、この「自己改革実践方策」に基づき、県下JAとの適切な役割分担のもと、農業の担い手の所得向上等に向けた取組みを設定し、その取組みの着実な実践に努めています。

農業の担い手の所得向上等の支援に向けた取組み

当会は、県下JAや他連合会等と連携を図り、県内の意欲ある農業の担い手の所得向上等に向けた支援を一層強化するため、平成27年度から平成30年度までの4年間で総額20億円規模（農林中金および全農による企画事業を除く）の支援事業を次のとおり設定しています。

なお、平成30年9月末までの支援実績は、総額22億6,437万円となり、着実に支援事業が実践されています。

◆ 農業経営にかかわる金融負担軽減に資する支援

① 農業資金の借入れにかかわる利子助成の拡充

農業資金の借入れにかかわる利子助成において、一層の金融負担軽減に資する支援をするため、JAバンクあいちアグリサポート利子助成事業の対象資金を拡充するとともに、利子助成率を0.5%から1.0%に拡大し、利子助成しています。

② 農業資金の借入れにかかわる保証料助成事業の対象資金の拡充

農業資金の借入れにかかわる保証料助成において、一層の金融負担軽減に資する支援をするため、保証料助成事業の対象資金を拡充するとともに、取組期間を延長し、保証料助成しています。

③ 農機具等の購入にかかわる費用の一部を助成

規模拡大や生産効率の向上によるコスト低減を図る農業の担い手に対し、農機具等の購入費用の一部（本体価格の30%（上限200万円））を助成しています。

④ 農機具等の導入にかかわるリース料の一部を助成（農林中金および全農による企画事業）

規模拡大や生産効率の向上によるコスト低減を図る農業の担い手に対し、農機具等導入に対するリース料の一部を助成しています。組合員の方には本体価格の40%（上限400万円）、その他の担い手の方には本体価格の20%（上限200万円）までを助成しています。

◆ 将来の農業の担い手（新規就農者）確保にかかわる支援

- ⑤ 新規就農希望者に対する独立就農に向けた研修受入先に対する助成の拡充
 新規就農希望者に対して独立就農に向けた実践的な研修を行う受入先に対し、研修生1名当たり最大で年間120万円まで助成金額を増額したほか、助成対象とする研修生の範囲を拡大しました。
- ⑥ 親元就農の促進と就農後の定着化を図るための親元農家に対する助成
 農業次世代人材投資資金（旧青年就農給付金）の受給対象となっていない親元就農者を支援するため、親元農家に対して年間120万円を最長で3年間助成しています。
- ⑦ 独立就農する認定新規就農者に対する農業費用の助成（農林中金による企画事業）
 独立就農する認定新規就農者に対して、農業次世代人材投資資金の補完として農業費用を年間最大20万円、最長で3年間助成しています。

◆ 多様化する農業の担い手の経営課題に応えるためのコンサルティング機能の発揮

- ⑧ 農業経営アドバイザーによる的確な資金提案・計画等コンサルティング機能の発揮
 当会の農業経営アドバイザーが農業の担い手のもとに出向き、的確な資金提案や資金計画の作成支援等のコンサルティングを実施しています。
- ⑨ 農業経営支援ツールの導入にかかわる利用料金の一部を助成
 大規模化する農業の担い手の経営管理の高度化を支援するため、農業経営支援ツール（豊作計画、Akisai、あぐりログ）を導入する農業の担い手に対して、利用料金の50%（年間30万円を上限）を最長で3年間助成しています。

【平成27年度から平成30年度9月末までの支援実績】

（単位：千円）

区 分		件 数	金 額
農業経営にかかわる金融負担軽減に資する支援	① JAバンクあいちアグリサポート利子助成事業等の利子助成事業	9,623	119,540
	② JAバンクあいち農業資金保証料助成事業	2,542	314,714
	③ JAバンクあいち農機具等購入応援事業	1,395	658,698
	④ 農機具等リース応援事業（農林中金および全農による企画事業）	159	(注2) 377,645
将来の農業の担い手（新規就農者）確保にかかわる支援	⑤ JAバンクあいち就農研修応援事業	140	102,691
	⑥ JAバンクあいち親元就農応援事業	882	1,058,400
	⑦ 新規就農者営農支援事業（農林中金による企画事業）	206	(注2) 35,586
多様化する農業の担い手の経営課題に応えるためのコンサルティング機能の発揮	⑧ 農業経営アドバイザーによる的確な資金提案・計画等のコンサルティング事業の拡充	(注1) 114	-
	⑨ JAバンクあいち農業経営IT化応援事業	402	10,335
合 計			2,264,378

(注1) コンサルティングを行った延べ先数を記載しています。

(注2) 当会による企画事業ではないため、この金額を除いたものを合計としています。

農業者への円滑な資金供給に向けた取組み

県内の農業を営む皆様の農業経営を支援させていただくため、次のとおり農業者の資金ニーズに適時・的確に対応する円滑な資金供給に取り組んでいます。

◆ 農業経営課題へのJAグループの総合力の発揮

厳しさを増す農業経営の環境下、農業の担い手が抱える多種多様な経営課題に、JAグループが総合力を結集し、ワンストップで専門的・総合的な対応を行っていくため、他連合会等と共同設置した「JAグループ愛知担い手総合相談支援室」において、相談対応を行っています。

◆ 事業性評価融資への取組み

農業経営のコンサルティングを担う専門チームを設置し、農業の担い手の経営により一層寄り添い、経営状況や事業成長性の分析等を行う事業性評価に取り組む体制を整備し、金融仲介機能の発揮に努めています。

◆ 農業経営の相談対応力の強化に向けた態勢整備

農業経営の相談対応力の強化に向け、農業経営アドバイザー資格（日本政策金融公庫主催）の取得奨励による農業融資担当者の人材育成に取り組んでおり、平成30年9月末での有資格者数は、54名となりました。また、県下JAの営農担当者等に対しても、県中央会と共同で、農業融資の推進や新規就農者支援の取組み等にかかる研修会を行いました。

◆ 農業者の資金ニーズに対応する金融商品の提供

農業者の多様な資金ニーズに対応するため、アグリマイティー資金等のJA独自の農業資金のほか、代理店として「日本政策金融公庫資金」の受託貸付金の取り扱いを行う等、幅広い商品ラインナップを取り揃えています。

【農業の担い手の資金ニーズに対応する主な商品ラインナップ】

区分	資金名
農業資金	アグリマイティー資金 農機ハウスローン 農業経営ローン 担い手応援ローン（一般型およびABL対応型） 新規就農応援資金 経営所得サポートローン
制度資金	農業近代化資金 農業経営改善促進資金（スーパーS資金）
日本政策金融公庫資金	農業経営基盤強化資金（スーパーL資金） 経営体育成強化資金 農業改良資金 青年等就農資金

◆ 農業関係貸出金の供給状況

平成30年9月末の農業関係の貸出金残高は169億円となりました。

また、代理店として「日本政策金融公庫資金」の受託貸付金の取扱いも行っていきます。

【農業関係貸出金残高】

(単位：百万円)

区 分		平成30年3月末	平成30年9月末
貸出金	プロパー資金	18,245	16,420
	農業近代化資金	585	539
	合計	18,831	16,960
受託貸付金	日本政策金融公庫資金	35,966	34,945
	合計	35,966	34,945

◆ 農業者への情報提供の充実と利便性向上に向けた取組み

JAバンクあいちでは、農業者への情報提供の充実と利便性向上を目的に、ホームページの農業資金ページをリニューアルし、平成30年1月31日より公開しました。

このリニューアルでは、JAバンクあいちが取り扱っている農業融資商品や農業振興に向けた取組み等をより分かりやすく理解していただけることを目指して構成・デザインを刷新しています。また、農業融資商品については、「就農形態」と「資金用途」から該当する項目を選択することで利用可能な資金が一覧表示される機能へ拡充しています。



農業資金ページトップ画面

農業法人に対する多様な資金調達手段の提案

農業法人の皆様への資金調達手段の一つとして、財務の安定化と対外信用力の向上等をご支援するため、アグリビジネス投資育成㈱と連携し、「アグリシードファンド」や「担い手経営体応援ファンド」による資本供与を提案しています。



「アグリシードファンド」チラシ

農業の担い手等の販路拡大の支援に向けた取組み

農業を営む皆様の販路拡大や県内農産物のPRを広く支援し、ビジネスパートナーを幅広く紹介させていただくため、次の取組みを実施しています。

◆ 東海四県JAグループ食と農の大商談会の開催

農業の担い手等の販路拡大を支援するため、東海四県のJAグループが連携した商談会を平成27年から毎年開催しています。

平成30年11月に第4回目となる「東海四県JAグループ 食と農の大商談会2018」を開催し、出展者による農畜産物およびその加工品のPRの場、来場者の新たな交流・情報交換の場として、会場は大いに賑わいを見せました。



食と農の大商談会の様子

◆ 融資取引先等へのビジネスマッチングの支援

農業の担い手等の販路拡大を支援するため、「食」と「農」にかかわる融資取引先等の販路拡大もしくは仕入（原材料・商品）拡充に向けたニーズを的確に捉え、JAグループにおいて連携を図りながら、そのニーズに合った企業等の紹介を実施しています。

農産物直売所等の利用活性化に向けた取組み

農業者の皆様の所得向上や地産地消の拡大を図るため、より多くの皆様に、県内の農畜産物を販売するJA運営の農産物直売所等をご利用いただけるよう、JAバンクでは、平成29年4月からJAが運営する農産物直売所やグリーンセンター（一部対象外の店舗があります。）でのJAカード利用代金の割引施策を実施しています。愛知県内では、72（平成30年9月30日現在）の農産物直売所およびグリーンセンターが割引対象店舗となり、平成31年3月末まで、店頭でお買い物されたお客様のJAカードご利用時のお買い物代金について、請求時に5%割引します。



JAカード利用代金割引施策ポスター

地域農業の応援団拡大に向けた取組み

より多くのお客様に、県内産の農畜産物等の消費拡大や農業への理解の深耕等を通じて、地域農業の応援団になっていただけるよう、次の取組みを実施しています。

◆ 農業応援定期積金「つみたて！愛知」の取扱いを開始

県下JAでは、昨年度に引き続き、平成30年4月1日から、農業応援定期積金「つみたて！愛知」の取扱いを開始しました。この商品は、個人の方を対象に、定期積金の給付契約額 50 万円につき1口付与される抽選権により、契約年度の翌年度および満期到来年度の2度抽選を実施し、県内産農畜産物等を取り揃えたギフトカタログを贈呈します。

平成30年9月末実績で 63,839 件、54,442 百万円のご契約をいただいています。

また、新たな農業の担い手の確保に向け、ご契約いただいた給付契約金額の 0.02%に相当する金額（上限 300 万円）を、愛知県立農業大学校の学生に奨学金として給付しており、平成30年8月6日に学生 5 名に対して 238 万円を贈呈しました。



「つみたて！愛知」ポスター



贈呈式の様子

◆ 年金定期貯金「結いの恵み」の取扱いを開始

県下JAでは、昨年度に引き続き、平成30年4月1日から、年金受給者向け貯金商品として年金定期貯金「結いの恵み」の取扱いを開始しました。

この商品は、JAバンクを年金の振込口座に指定いただいた方を対象に、定期貯金の新規預入金額50万円につき1口付与される抽選権により、定期貯金の申込時に抽選を実施し、国産農畜産物等を取り揃えたギフトカタログを贈呈します。

平成30年9月末実績で 42,896 件、92,983 百万円のご契約をいただいています。



「結いの恵み」ポスター

◆ 「定期貯金でチャンス！農業応援キャンペーン」の実施

県下JAでは、平成30年6月から8月の期間を対象に、「定期貯金でチャンス！農業応援キャンペーン」を実施しました。

このキャンペーンは、県内JAが運営する農産物直売所やグリーンセンター、Aコープ等の経済事業店舗で配布される応募用紙を信用事業店舗の店頭にご持参のうえ、10万円以上の定期貯金をご契約された個人のお客様を対象に、特典として、抽選で農産物直売所等の経済事業店舗で使用できる「愛知県農協ふれあい商品券」1万円分を、1,000名のお客様に贈呈します。

平成30年度は6,917件、12,214百万円のご契約をいただきました。



「定期貯金でチャンス！農業応援キャンペーン」ポスター

農業への理解の深耕等に向けた取組み

JAバンクあいちでは、「農業メインバンク」として、より多くのお客様に農業の尊さをお伝えするため、次の取組みを実施しています。

◆ JAバンクあいちの取組みにかかる広報・PR活動の強化

農業に真摯に向き合うこの地域の農業者や農業に携わる人々の姿を地域の皆様に広くご理解いただくため、CMや、ポスター等で紹介しています。

CMの最後に展開される「未来が実る、農業へ。」は、JAバンクあいちが地域農業の未来に向け、農業所得向上と地域農業活性化に取り組む姿勢を表現しています。



CM「未来が実る、農業へ。」編

◆ 小学校等への教材本の贈呈

農業に対する理解の深耕、JAファンづくり等を図るため、県内の全小学校および要望のあった特別支援学校・学級を対象として、食農および環境保全をテーマとした教材本の贈呈に取り組んでいます。



平松県教育委員会教育長（右）へ教材本を贈呈



教材本「農業とわたしたちの暮らし」

◆ 食農教育等をテーマとした活動助成

農業や自然環境等に対する理解の促進や、JAのファンづくり等を図るため、JA等が行う子どもに対する食農教育・環境教育等をテーマとした活動に対する費用助成に取り組んでいます。



食農教育活動の風景

地域貢献情報

当会は、JAバンクあいちの一員として、県下JAが食の安全と安心を幅広く地域の皆様にお届けし、農業の振興や地域社会の発展に貢献することを金融面からサポートするとともに、地域社会の一員として、環境保全や社会福祉などに対する貢献活動を通じて豊かでゆとりのある地域社会の創造に向けた取組みを行っています。

地域からの資金調達・資金供給の状況

◆ 地域からの資金調達の状況

当会の平成30年9月末の貯金残高は7兆6,933億円となり、県内に本店を有する金融機関としては最大の資金量を有しています。その資金の大半は、県下JAやJA関係諸団体からお預かりしています。地域の皆様に対しては、子育て支援を目的とした「子育て応援定期貯金」や「子育て応援定期積金」等のJAと同様の各種貯金商品を提供しています。

◆ 地域への資金供給の状況

農業資金融資に加え、地域の皆様の暮らしや事業主の皆様の事業を金融面から支援させていただくための融資活動に取り組んでおり、当会の平成30年9月末の貸出金残高は5,963億円となりました。地域の皆様には、資産活用等の一環として賃貸住宅向け資金等をご利用いただいています。また、県内に事業所を置く企業等の皆様には、地域経済の発展に向けて必要となる資金をご融資しており、とりわけ愛知県が産業振興分野としている自動車・医療・介護等にかかわる地元企業との新規取引に向けて積極的に取り組んでいます。

お客さま本位の業務運営に関する取組み

JAグループは、食と農を基軸として地域に根ざした協同組合として、助け合いの精神のもとに、持続可能な農業と豊かで暮らしやすい地域社会の実現を理念として掲げています。

当会では、この理念のもと、平成29年3月に金融庁より公表された「顧客本位の業務運営に関する原則」を採択するとともに、①お客さまへの最適な商品提供、②お客さま本位のご提案と情報提供、③利益相反の適切な管理、④お客さま本位の業務運営を実現するための人材の育成と態勢の構築についての取組方針を制定し、利用者の皆さまの安定的な資産形成に貢献するよう努めています。

今後、本方針に基づく取組みの状況を定期的に公表するとともに、よりお客さま本位の業務運営を実現するため本方針を必要に応じて見直してまいります。

金融円滑化への取組み

当会は、中小企業金融円滑化法の期限到来後におきましても、農業専門金融機関・地域金融機関として、「健全な事業を営む農業者を始めとする地域のお客様に対して必要な資金を円滑に供給していくこと」を「当会の最も重要な役割の一つ」として位置付け、当会が担う公共性と社会的責任を強く認識し、その適切な業務の遂行に努めています。

◆ 経営者保証に関するガイドラインへの取組み

当会は、経営者保証に関するガイドライン研究会が公表した「経営者保証に関するガイドライン」を踏まえ、本ガイドラインを尊重し、遵守しています。

特殊詐欺被害防止に向けた取組み

◆ 特殊詐欺被害の未然防止に向けたご高齢のお客さまのATM利用限度額引下げの実施

JAバンクあいちでは、平成30年4月27日より、特殊詐欺被害の未然防止に向け、愛知県下JAおよびJA愛知信連で口座をお持ちの満70歳以上の個人のお客さまのうち、一定期間、1日あたり50万円を超えるATM取引（出金・振替および振込）をしていないお客さまについて、ATMの利用限度額を引き下げる取組みを開始しました。

この取組みは、全国的に特殊詐欺（振り込め詐欺、還付金詐欺など）が多発しており、今後も被害の拡大が懸念されている状況を踏まえ、金融機関としての責務を果たし、お客さまの大切な財産を特殊詐欺からお守りするために実施しているものです。本取組みにかかわる事前PR活動として、平成30年4月19日にJAあいちビル前の歩道において、当会の職員が愛知県警察と合同で、組合員をはじめとする利用者の方々等にチラシやポケットティッシュをお配りしながら声掛けを行い、特殊詐欺への注意喚起を図りました。

特殊詐欺被害の未然防止に向けた ご高齢のお客さまのATM利用限度額引下げにかかわる実施概要	
開始日	平成30年4月27日
対象顧客	愛知県下JAおよびJA愛知信連で口座をお持ちの満70歳以上の個人のお客さまのうち、一定期間、1日あたり50万円を超えるATM取引（出金・振替および振込）をしていないお客さま。
実施内容	1日あたりのATM取引（出金・振替および振込）の合計ご利用限度額を50万円までに引き下げます。



PR活動を行う当会職員

◆ 特殊詐欺被害防止キャンペーンの実施

JAバンクあいちでは、愛知県警察および東海財務局との3者合同で、高齢者を中心に被害が多発している振り込め詐欺等の特殊詐欺被害の未然防止に向け、年金支給日である平成30年6月15日に、特殊詐欺被害防止キャンペーンを実施しました。

このキャンペーンでは、名古屋駅東側桜通口付近において、主催した3団体の職員のほか、1日警察官やマスコットキャラクターであるJAバンクの「ちょリス」および愛知県警察の「コノハ警部」も参加し、通行客に対してチラシ等を配布しながら、広く注意喚起を行いました。



注意喚起を行う1日警察官（当会職員）



丹羽常務理事によるあいさつ

環境保全活動

◆ 森林保全活動の実施

農業に不可欠な綺麗な水を育む森林を守るため、平成30年5月19日に、瀬戸市白岩町の瀬戸県有林において、45名の役職員が、除伐（ヒノキの成育を妨げる木の伐採）を中心とした森林保全活動に取り組みました。

この活動は、平成14年度から取組みを開始し、これまでに37回、延べ911名の役職員が参加しています。

また、10月20日には、今年度第2回目の活動を行いました。



森林保全活動（除伐）の様子

社会福祉活動

◆ 児童養護施設へ愛知県産のスイカの寄贈

日本の将来を担う児童の健やかな成長を食の面から支援することにより、児童に食の大切さ、農業の大切さを理解していただくとともに、県内農業の発展に寄与することを目的として、平成30年6月15日に、県下の全児童養護施設（35施設）に対して、中部善意銀行を通じ、東三河産のスイカ402個を寄贈しました。

この活動は、愛知県産の果物を贈るものとして、平成28年度から開始し、これまでに、巨峰、イチゴ、メロン、ポンカンを寄贈しており、寄贈額は368万円相当となっています。



小山中部善意銀行副理事長（右）へ目録を贈呈

◆ 団体献血の実施

地域社会の一員として地域医療に貢献するため、平成30年8月23日および8月28日に愛知県赤十字血液センターの協力のもと団体献血を実施し、112名の役職員が参加しました。

この活動は、平成18年度から取り組みを開始し、これまでに15回、延べ1,331名の役職員が参加しています。



団体献血の様子

◆ 高齢者福祉事業に携わるJAへ福祉機器等の寄贈

協同組合組織の地域金融機関として、「高齢者が誰にも気がねがなく、安心して暮らせる豊かな地域を築き上げていく」ことに役立てていただくため、平成30年9月に、高齢者福祉事業に携わるJAに対し、福祉機器等63万円相当を寄贈しました。

この活動は、平成14年度から開始し、これまでに1,996万円相当を寄贈しています。

平成30年度上半期の業績

平成30年度上半期においては、日銀のマイナス金利政策の継続の影響等、厳しい資金運用環境の中、効率的な資金運用と徹底した事業運営コストの削減に努めた結果、当期剰余金 87 億 3 百万円を確保することができました。

貯金

平成30年9月末の貯金残高は、県下JAをはじめとする会員を中心に、7兆6,933億円となり、期中2,088億円増加しました。

融資

平成30年9月末の貸出金残高は、地元企業等への貸出を中心に、5,963億円となり、期中35億円増加しました。

なお、受託貸付金については、日本政策金融公庫等の取扱いが減少したこと等により、期中19億円減少し、平成30年9月末残高は517億円となりました。

余裕金運用

平成30年9月末の預け金残高は、4兆2,645億円となり、期中1,316億円増加しました。

また、平成30年9月末の有価証券残高は、3兆1,573億円となり、期中196億円増加しました。

◆ 主要な経営指標の推移

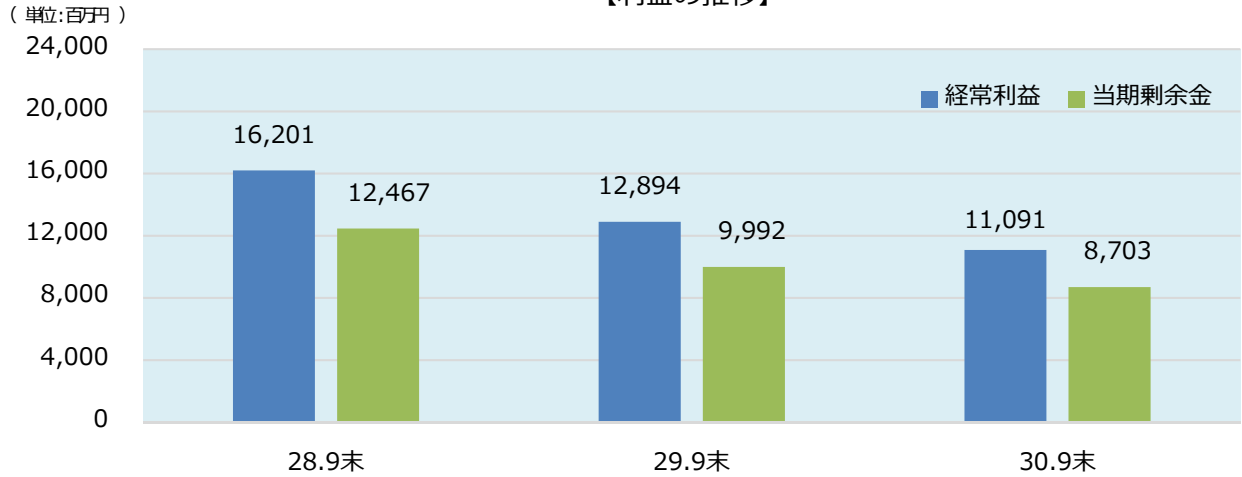
(単位:百万円、%)

項目	平成29年3月末	平成29年9月末	平成30年3月末	平成30年9月末
貯金残高	7,115,279	7,296,101	7,484,501	7,693,372
貸出金残高	576,838	589,693	592,752	596,344
預け金残高	4,027,608	4,059,877	4,132,950	4,264,575
有価証券残高	2,849,345	3,004,656	3,137,680	3,157,342
出資金	187,402	187,402	198,402	198,402
純資産残高	436,129	443,534	453,524	448,228
総資産残高	7,793,363	8,011,249	8,221,765	8,413,809
経常収益	76,371	41,845	75,352	41,211
経常利益	17,607	12,894	14,999	11,091
当期剰余金	14,131	9,992	11,978	8,703
自己資本額	413,452	423,743	419,136	428,275
自己資本比率	19.90	20.22	19.84	20.23

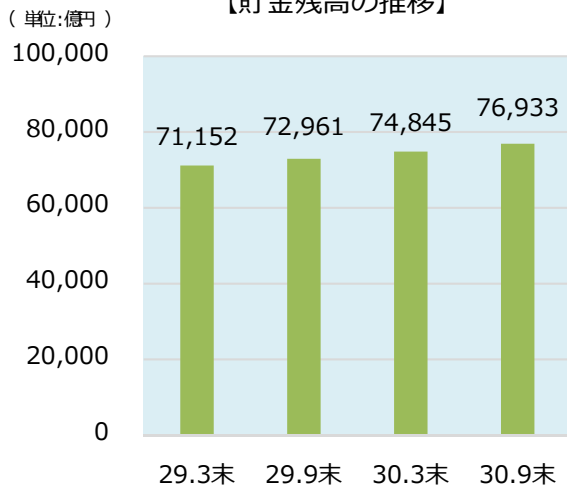
(注) 貯金残高には、譲渡性貯金を含んでいます。

◆ 主要勘定の推移

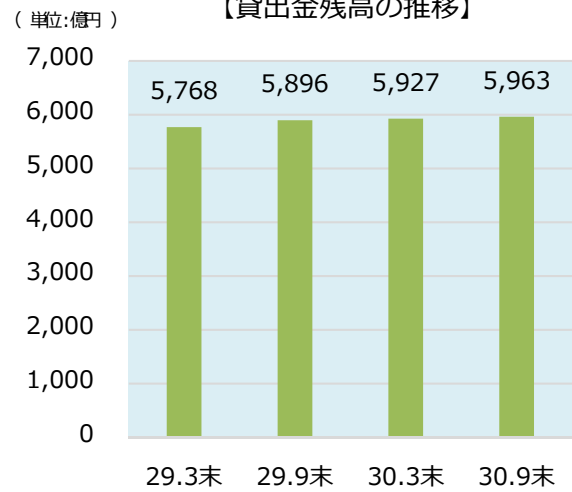
【利益の推移】



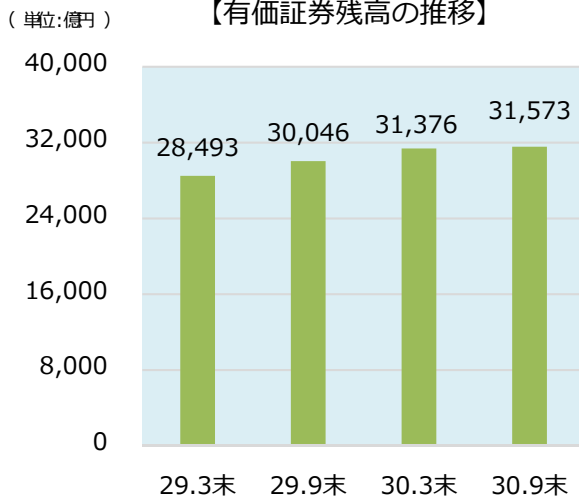
【貯金残高の推移】



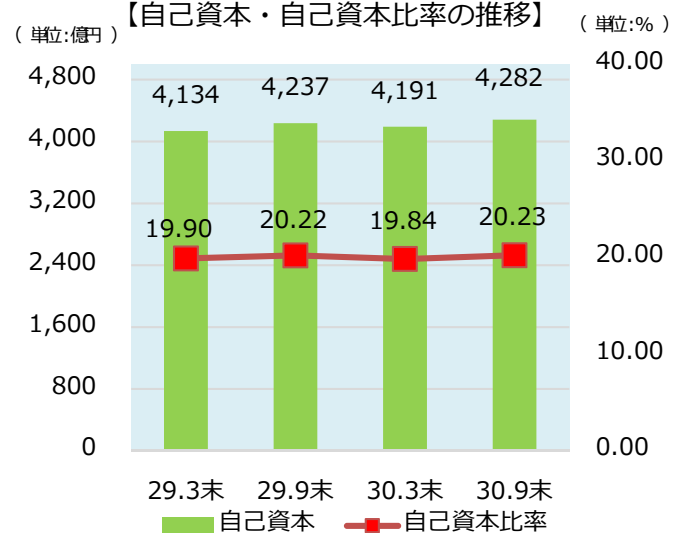
【貸出金残高の推移】



【有価証券残高の推移】



【自己資本・自己資本比率の推移】



◆ 単体自己資本（国内基準）の構成

（単位：百万円、％）

区 分	平成30年3月末	平成30年9月末
コア資本に係る基礎項目の額	419,416	428,524
コア資本に係る調整項目の額	280	248
自 己 資 本 の 額	419,136	428,275
リスク・アセット等の額の合計額	2,112,259	2,116,804
信用リスク・アセットの額の合計額	2,079,746	2,084,291
オペレーショナル・リスク相当額の 合計額を8％で除して得た額	32,513	32,513
自 己 資 本 比 率	19.84	20.23

（注） 単体自己資本比率は、農協法第11条の2第1項第1号の規定に基づく組合の経営の健全性を判断するための基準に係る算式に基づき算出しています。

◆ リスク管理債権額の状況

（単位：百万円）

区 分	平成30年3月末	平成30年9月末	増減
破 綻 先 債 権	920	1,070	149
延 滞 債 権	1,168	1,067	△ 101
3 カ月以上延滞債権	-	-	-
貸出条件緩和債権	50	50	-
合 計	2,139	2,187	48

（注） 当会は半期での自己査定は行っていないため、平成30年9月末の計数は次の方法により算出しています。
 1 各債権区分額は、平成30年3月末時点の債権額を基準として、平成30年9月末時点の残高に修正しています。
 2 平成30年3月末から9月末までの間に、債務者区分の変更が必要と認識した先については、9月末時点の債務者の状況に基づき債権区分を変更しています。

◆ 金融再生法に基づく開示債権額および保全状況

[平成30年3月末]

(単位：百万円)

区 分	債権額	保全額			
		担保	保証	引当	合計
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	926	-	0	926	926
危 険 債 権	1,242	517	0	459	977
要 管 理 債 権	50	-	50	0	50
計	2,219	517	50	1,385	1,953
正 常 債 権	598,139				
合 計	600,358				

[平成30年9月末]

(単位：百万円)

区 分	債権額	保全額			
		担保	保証	引当	合計
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	1,075	-	-	1,075	1,075
危 険 債 権	1,133	504	0	397	902
要 管 理 債 権	50	-	50	0	50
計	2,258	504	50	1,473	2,027
正 常 債 権	601,479				
合 計	603,737				

- (注) 当会は半期での自己査定は行っていないため、平成30年9月末の計数は次の方法により算出しています。
- 1 各債権区分額は、平成30年3月末時点の債権額を基準として、平成30年9月末時点の残高に修正しています。
 - 2 平成30年3月末から9月末までの間に、債務者区分の変更が必要と認識した先については、9月末時点の債務者の状況に基づき債権区分を変更しています。

◆ 有価証券の時価情報

(単位：百万円)

区 分	平成 30 年 3 月末			平成 30 年 9 月末		
	取得価額	時 価	評価損益	取得価額	時 価	評価損益
売 買 目 的	-	-	-	-	-	-
満期保有目的	-	-	-	-	-	-
そ の 他	2,989,253	3,137,680	148,426	3,021,408	3,157,342	135,934
合 計	2,989,253	3,137,680	148,426	3,021,408	3,157,342	135,934

(注) 1 時価は、平成30年3月末または9月末における市場価格等に基づく時価としています。

2 取得価額は、償却原価法適用後、減損処理後の帳簿価額としています。

◆ 金銭の信託の時価情報

(単位：百万円)

区 分	平成 30 年 3 月末			平成 30 年 9 月末		
	取得価額	時 価	評価損益	取得価額	時 価	評価損益
運 用 目 的	4,999	4,999	-	4,998	4,998	-
満期保有目的	-	-	-	-	-	-
そ の 他	81,110	80,243	△ 866	101,110	102,902	1,792
合 計	86,109	85,243	△ 866	106,108	107,900	1,792

(注) 1 時価は、平成30年3月末または9月末における市場価格等に基づく時価としています。

2 取得価額は、運用目的については取得価額を、その他については償却原価法適用後、減損処理後の帳簿価額としています。



<http://www.jabank.aichishinren.or.jp/>